

老後の同居家族と暮らし方の変化

・・・老後の生活設計を考える基礎的なデータです・・・

19. 9.14 矢島義恭

65歳女性の平均余命は88.4歳となり半数近くが90歳以上長生きできるようになりました。男性の寿命のほうが短いため、女性には配偶者のいる人が少なくなります。75歳を過ぎると半数以下になり、85歳を過ぎるとわずか12.3%になります。これに対して85歳を過ぎても男性には67.4%の人に配偶者がいます。老後の暮らし方は男女でかなり違ってきます。

長い老後を子どもに頼らずに暮らそうという高齢者が増えています。70歳前後では夫婦二人だけで暮らす人は男性の約45%、女性は約35%になり、一人暮らしをする人も男性で約10%、女性で約17%になります。両者を合わせると男女の半数を越えています。80歳以後の一人暮らし高齢者が増えているのも近年の傾向で、女性では23.5%にもなります。

子どもに頼らない高齢者の自立した生活も、老化により身心機能や生活能力が衰えれば他人の介助がなければ暮らせません。介護保険の介護度の認定はその目安になります。介護を必要とする認定者は男性より女性の比率が高いのが特徴です。75歳過ぎると急速に増え80歳代前半では33.8%、後半では54.8%、90歳以後では実に74.7%と4人に3人となります。老々介護は女性ばかりの問題ではありません。介護施設入所や入院も女性が高い比率になります。

◆ 女性高齢者の暮らし方の変化 (データはすべて%)

	60歳～	65歳～	70歳～	75歳～	80歳～	85歳～	90歳～
a 65歳女性の平均余命					●88.4歳		
b 夫のいる女性	76.1	69.6	59.3	45.0	26.7	12.3	4.3
c 夫婦2人だけ世帯	36.5	38.2	33.4	23.4	11.9	4.2	1.0
d 一人暮らし女性	11.4	15.0	19.4	23.0	23.5	18.6	10.3
e 施設入所・入院	0.8	1.2	2.2	4.6	10.4	18.8	32.5
f 介護保険の認定者		2.8	7.4	16.9	33.8	54.8	74.7

◆ 男性高齢者の暮らし方の変化 (データはすべて%)

	60歳～	65歳～	70歳～	75歳～	80歳～	85歳～	90歳～
a 65歳男性の平均余命					●83.5歳		
b 妻のいる男性	83.9	85.3	85.0	82.3	76.4	67.4	49.0
c 夫婦2人だけ世帯	33.8	42.7	47.0	45.2	38.9	30.1	18.5
d 一人暮らし男性	10.8	9.5	9.1	9.4	10.6	11.3	11.9
e 施設入所・入院	1.5	1.8	2.3	3.4	5.6	10.0	18.1
f 介護保険の認定者		3.0	6.3	12.0	21.9	38.3	59.7

◆ 心身の衰え

身体機能や生活能力の衰え
病気がち・医者通い

老弱 老衰
介助や介護が必要な状態
要介護認定者の約40%は認知症

◆ 家族へのサポート

親の介護(4人)
未婚のこども 孫育ての支援

配偶者の看護・介助

配偶者の老々介護

[データの出所] a: 厚労省平成18年簡易生命表(全国、長野県はこれより約0.5歳高い)

b, c, d, e: 平成17年 国勢調査より f: 厚労省公表、介護保険の平成18年10月審査